

保存版

A. 医師が記入した意見書が望ましい感染症

病名	感染しやすい期間	登園の目安
麻疹（はしか）	発症 1 日前から発疹出現後の 4 日後まで	解熱後① 3 日を経過してから
インフルエンザ	症状がある期間（発症前24時間から発病後 3 日程度までが最も感染力が強い）	発症②した後 5 日を経過し、かつ解熱した後 2 日を経過するまで〔幼児（乳幼児）にあつては、3 日を経過するまで〕
風しん	発疹出現の前 7 日から後 7 日間くらい	発疹が消失してから
水痘（水ぼうそう）	発疹出現 1 ～ 2 日前から痂皮形成まで	すべての発疹が痂皮化してから（かさぶたになるまで）
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発疹が痂皮化してから（かさぶたになるまで）
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症 3 日前から耳下腺腫脹後 4 日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから 5 日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核		医師により感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え 2 日経過してから
流行性角結膜炎（はやり目）	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後 3 週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111等）		症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続 2 回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から 1 ～ 2 週間、便から数週間～数か月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで
侵襲性髄膜炎菌感染症（髄膜炎菌性髄膜炎）		医師により感染の恐れがないと認めるまで

補足

①解熱した次の日を第 1 日と数える。

②発症とは、発熱の症状が現れたことをさす。発熱した次の日を第 1 日と数える。

B. 医師の診断を受け、保護者が記入する登園届が望ましい感染症

病名	感染しやすい期間	登園の目安
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後 1 日間	抗菌薬内服後 24～48時間経過していること、 <u>発熱が治まって①</u> いること、発疹がある場合は消失してから
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	<u>発熱や激しい咳が治まっている②</u> こと
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	解熱し、口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑（りんご病）	発疹出現前の 1 週間	全身状態がよいこと
ウイルス性胃腸炎（ノロ、ロタ、アデノウイルス等） その他の胃腸炎	症状のある間と症状消失後 1 週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排出しているので注意が必要）	<u>嘔吐③</u> 、 <u>下痢④</u> 等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に 1 か月程度ウイルスを排出しているので注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
R S ウイルス感染症	呼吸器症状のある間	<u>呼吸器症状が消失⑤</u> し、全身状態がよいこと
突発性発しん		解熱し、機嫌がよく全身状態がよいこと
嘔吐・下痢		<u>嘔吐③</u> 、 <u>下痢④</u> の症状が治まり、普段の食事がとれること

補足

①発熱が無いとは、登園前 24 時間 38℃ を超える発熱が無い。登園当日は体温は 37.5℃ 以下で、活気があり機嫌もよいこと。

②咳が治まっているとは、連続した咳がない、喘鳴（ぜーぜー、ひゅーひゅー）や、つらそうな呼吸もないこと。

③嘔吐が治まっているとは、登園前 24 時間嘔吐が無い。また登園当日、食事がとれている、顔色がよいこと。

④下痢が治まっているとは、登園前 24 時間水様下痢が無く、軟便が 1 日～ 2 回程度である、また腹痛がないこと。

⑤呼吸器症状が消失しているとは、呼吸の回数も多くななく楽な呼吸をしていること。